






呈 覽	市 長	副市長	部 長	次 長	課 長	課長補佐	係 長	係 員
	*	*	*	*				

会 議 報 告 書

令和5年3月24日

防災安全課 防災係

鎌田 俊郎 

件 名	名取市防災会議
日 時	令和5年3月24日（金） 14:00～14:45
場 所	名取市文化会館 小ホール
出席者	名取市防災会議会長及び委員等 36名（別紙出欠名簿のとおり） 防災安全課 小松課長、鈴木課長補佐、橋本防災係長、川村主幹、 佐藤技術主幹、鹿野又主事、鎌田
内 容	<p>○名取市防災会議 進行：鈴木課長補佐</p> <p>1 開 会</p> <p>2 議 事</p> <p>1) 名取市地域防災計画の修正案について 橋本防災係長より資料に基づき説明</p> <p>質疑① 個別避難計画について、市の条例によれば避難行動要支援者ごとの個別避難計画を作るはずだが、誰が主体となって作るのか、市なのか町内会なのか、また作るにあたってマニュアルのようなものはあるのか伺う。もう一つ、名簿提供者について市が計画を作成しているか、又は作成のフォローをしているかについて尋ねる。</p> <p>回答① 個別避難計画については、健康福祉部の社会福祉課が担当している。避難行動要支援者名簿については作成並びに配布しているが、個別避難計画作成には至っていない。令和5年度取り組みを開始すべく準備中である。誰が作るのかということについては、市が、町内会、自主防災組織、民生委員など関係機関の協力を得ながら作成することになる。マニュアルについては、まず全地区一斉に作るのは難</p>

しいと考えており、優先する地区などにはマニュアルなどを作ってお示ししたい。今現在の状況については、個別避難計画の着手には至っていない。

また、難しい問題もある。支援を必要とする方の例えば障害の度合いというか、種類というか、また災害の種別や地区別によっても、対応が変わるということと、支援する側が平日の日中や土日の夜間など対応が可能かなど、地域の方と綿密な打ち合わせが必要となる側面もあるので、まずはモデル地区などを指定し、そういう所からしっかりとやっていきたい。

質疑② 後発地震に関する情報の追加とあるが、事前対策の方だけに書いてあるが、可能であれば応急対策編にも市としてどうするかの文言が1行でもあれば良いと考える。

もう一点、例えば閑上公民館は大津波の時は屋上のみということだが、果たして災害が起こっている時に津波警報や大津波警報の分別ができるのかどうか心配である。事例として釜石の防災センターというのがあって、地震の避難訓練をしていたため避難したところ、津波でたくさん亡くなったことがある。^{警報}（~~不断~~）の習慣は災害時に出る可能性があるもので、住民が大津波と津波を聞き分けられるかということによってこういう使い方をしても良いと思うが、そういうのが難しいならば、いっそ、避難所に指定しないというのも提案というか、意見としてはある。

応答② 後発地震に関しては必要な修正として反映させる。閑上公民館などの避難時の制限については、今ある避難所を活用するという必要で必要な制限を加えたが、まずは地域の理解を得て訓練などをしながら、その周知徹底などを図ることを考えている。

閑上公民館について、3 mの津波だと聞いていたら実は10 mを超えだなどと途中で切り替わり情報が錯綜する。その時に津波警報だと思って逃げていたら途中で大津波警報に代わった時に対応ができるのか、とか、そういうことも含め、大事なものは訓練で注意報だとか警報、大津波警報を分けてやることで、どれだけ対応が可能かということを実践してみ

て、その上でいろいろな修正を加えていきたい。

質疑③ 避難所のあり方について、感染対策があるが、これからもそういった対策は欠かせないと考える。一定の間隔を取ると、定員というものが出てくる。その場合、定員をオーバーできないので、避難所の数を改めて検討してもらえるか、あるいは避難所のあり方を再度検討する必要があるのか伺う。

回答③ コロナの対応には苦慮した経験がある。まず、発熱などの症状がある方とそうでない方の入口を分けたりとか、例えば同じ公民館でもホールは一般の方、別の個室に発熱者の個室を用意するとか、手指の消毒や熱を測るということもやりながら、場合によってはテントも使いながら、隔離というか、そういった形で対応することを考えている。

避難所の定員について県は一人あたり2㎡としているが、名取市の場合は4㎡としている。その上で116,000人ほどの収容が可能であると考えている。必要と思われる数よりはるかに多くのスペースを確保していると考えている。

質疑④ 名取市の場合、小中学校が避難所になった場合に教室の開放は可能か伺う。

回答④ 東日本の時、初め体育館を使い、避難者が増えてきたら教室を使った。それ以降の台風や水害などでは教室の開放には至っていないが、災害の規模によっては子供を含む住民の命を守ることが優先であるので、状況に応じて当然教室の開放も考えることになる。

質疑⑤ 教室を開放するのはいかがなものかという意見も一方ではある。ただ避難者には高齢者や障がい者、妊婦や子供たちなど多様であるので、必ずしも体育館だけが避難所となると、そこには難しい点が出てくるので、そういった場合に教室を開放してよいのか疑問を持っているが、可能であれば考えて頂きたい。

回答⑤ コロナ以降の避難所については、発熱者などは別の個室に、などの考え方があるので、学校の場合、体育館を使ったあと特別教室などに発熱者が避難できるよう、そのような場所も確保している。命を守ることを優先して考えていきたい。

2) その他

(事務局より)

- ① 市では4月1日から組織改編があり、各災害対策の実施担当に若干の変更が生じるため、これに伴う修正については今後行うものとし、その細部は、事務局にお任せ願う旨説明し承認された。
- ② 災害時応援協定について、会議前日に締結した仙台高等専門学校との協定を応援協定一覧に加える件について、その細部は、事務局にお任せ願う旨説明し承認された。

4 閉 会

以 上

名取市防災会議委員名簿

No.	区 分		所属機関等	氏 名
1	会 長	市町村長	名取市長	山田 司郎
2	1号委員	指定地方行政機関 の職員	東北地方整備局仙台河川国道事務所長	田中 誠柳
3			宮城海上保安部長	安尾 博志
4			東京航空局仙台空港事務所長	古堅 厚弘
5		自衛隊に所属する者	陸上自衛隊第22即応機動連隊長	中本 能久
6	2号委員	県の機関の職員	宮城県仙台地方振興事務所長	松田 茂
7			宮城県仙台保健福祉事務所長	泉 洋一
8			宮城県仙台土木事務所長	籠目 勇一
9	3号委員	警察機関	宮城県岩沼警察署長	仙洞田 守
10	4号委員	市町村の職員	名取市副市長	我妻 諭
11			名取市副市長	門脇 雅之
12			名取市会計管理者	宇田 孝康
13			名取市総務部長	桜井 淳一
-			名取市企画部長	(我妻 諭)
14			名取市健康福祉部長	小畑 和弥
15			名取市生活経済部長	大久保 啓二
16			名取市建設部長	村上 諭
17			名取市消防長	相澤 文明
18			名取市教育部長	菊池 博幸
19			名取市議会事務局長	大澤 博
20			名取市水道事業所長	芳賀 和明
21	名取市企画部市民協働課長	浅野 美保子		
22	5号委員	市教育長	名取市教育長	瀧澤 信雄
23	6号委員	市消防団長	名取市消防団長	松浦 泰信
24	7号委員	指定関係公共機関 及び関係地方公共 機関	日本赤十字社宮城県支部事務局長	渡辺 達美
25			東北電力ネットワーク(株)岩沼電力センター所長	上村 武司
26			東日本電信電話(株)宮城支店設備部長	水田 宗徳
27			JR東日本東北総合サービス(株)名取駅長	谷井 克己
28			名取市社会福祉協議会長	相澤 喜美
29	8号委員	自主防災組織を構 成する者及び学識 経験者	東北大学災害科学国際研究所准教授	佐藤 翔輔
30			那智が丘地区自主防災会前会長	高屋 政志
31			名取市婦人防火クラブ連絡協議会長	日下 礼子
32	9号委員	その他市長が必要と 認める者	一般社団法人生活応援倶楽部から一ず	渡辺 好江
33			NPO法人イコールネット仙台 常務理事	宗片 恵美子
34			防災教育の市民団体「ゆりあげかもめ」代表	佐竹 悦子
35			公益社団法人宮城県看護協会 岩沼支部長	佐々木 浩美
36			名取市民生委員児童委員協議会 会長	川村 米子
37			JA名取岩沼女性部 会長	洞口 ひろみ
38			名取市商工会 女性部	相澤 きよの
39			(一社)パーソナルサポートセンター 名取市生活困窮者自立相談支援センター 所長	池下 英理子
40			なとり生活支援センター窓 センター長	水沼 恵子
41			サポートケア名取ありのまま舎 センター長	熊谷 経子
42			女性消防隊 隊長	佐藤 君子